【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】令和3年2月25日(2021.2.25)

【公開番号】特開2019-115566(P2019-115566A)
【公開日】令和1年7月18日(2019.7.18)
【年通号数】公開・登録公報2019-028
【出願番号】特願2017-252162(P2017-252162)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｂ　1/018　(2006.01)
Ａ６１Ｂ　1/00　(2006.01)
Ｇ０２Ｂ　23/24　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｂ　1/018　５１４
Ａ６１Ｂ　1/00　７１１
Ｇ０２Ｂ　23/24　Ａ

【手続補正書】
【提出日】令和3年1月13日(2021.1.13)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
内視鏡は、操作部に設けられた起上操作レバーと、前記操作部に連結された挿入部の先端に設けられており、前記起上操作レバーと連動して回動するレバーと、前記操作部に対して前記起上操作レバーを止めるレバー止部と、起上台とを備え、前記レバー止部により前記操作部に対して前記起上操作レバーを止めた場合に、前記レバーが前記起上台を着脱可能な状態でロックされる。
【手続補正２】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
操作部に設けられた起上操作レバーと、
前記操作部に連結された挿入部の先端に設けられており、前記起上操作レバーと連動して回動するレバーと、
前記操作部に対して前記起上操作レバーを止めるレバー止部と、
起上台とを備え、
前記レバー止部により前記操作部に対して前記起上操作レバーを止めた場合に、前記レバーが前記起上台を着脱可能な状態でロックされる
内視鏡。
【請求項２】
前記起上操作レバーは、前記操作部の表面に沿って移動可能なレバー操作部を有し、
前記レバー止部は、前記レバー操作部が移動する経路上に設けられており、前記レバー操作部と係合可能な突起である
請求項１に記載の内視鏡。

【請求項３】
前記レバー止部は、内視鏡検査中に前記レバー操作部が移動する範囲の外側に配置されている
請求項２に記載の内視鏡。
【請求項４】
前記操作部は、第１面に湾曲ノブおよび前記起上操作レバーが取り付けられた長方形柱型の操作部筐体を有し、
前記レバー止部は、前記操作部筐体の前記第１面に隣接する第２面に、前記第１面と交差する向きに延びる柱状の突起である
請求項２または請求項３に記載の内視鏡。
【請求項５】
前記レバー操作部は、前記操作部に対向する面に前記レバー止部と係合して前記起上操作レバーを止めるレバー凹部を備える
請求項２から請求項４のいずれか一つに記載の内視鏡。
【請求項６】
前記レバー凹部は、前記レバー操作部の縁に沿って設けられている
請求項５に記載の内視鏡。
【手続補正３】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図２４
【補正方法】変更
【補正の内容】

【図２４】

